



稲塚利夫 議員

▼動画はこちら



員弁川(町屋川)下流域の河川敷の立ち木除去や堆積土砂の浚渫(しゅんせつ)の予定は

令和7年7月に県に要望し、現在立ち木伐採の実施個所を調整中である(町長)

問

員弁川は三重県の管轄だが、JR鉄道橋付近の町屋※頭首工より上流で、河道や河床の掘削、引堤による河道拡幅、頭首工の可動堰化など流下能力を高める計画がある。しかし、町屋頭首工から下流の堆積土砂や立ち木等の撤去計画は無く、流下能力を阻害すると思われる。これまで町が県に行ったこれらの撤去要望と実施状況ならびに今後の整備予定を問う。

答

町長

県は、令和7年4月に左岸側(桑名市側)は日の出橋から下流域1万平方メートル、右岸側(川越町側)は当新田上流域の1万平方メートルの立ち木伐採を実施している。当町は7月に、県に堤防の耐震調査実施

と河川内の体積土砂及び抜根を含めた立ち木の撤去を要望しており、県では現在実施個所を調整中である。



国道1号線町屋橋から下流の状況

再

員弁川の上・中流域では流下能力を高める整備が行われているが、当町に影響が大きい町屋頭首工より下流が現状のままでは、立ち木等が水の流下を妨げ、増水時に水位が上昇し、堤防が危ない状況になるのではないかと。

答

産業建設課長

県の回答は、下流に負担をかけない

計画で、これまで大きく水位は変化しないとのことだが、下流域の立ち木は河川の流下能力を大きく阻害することになるので、早急に立ち木を撤去するよう引き続き強く要望する。

問

三重県策定の「桑名圏域員弁川水系流域治水プロジェクト」に日の出橋から川越漁港までの堤防と、川越排水機場前の南福崎船着場近辺の海岸堤防の整備が記されているが、町が把握している内容と整備予定時期は。

答

町長

現在、川越地区管内では、朝明川左岸の川越南地先で耐震化事業を実施中で、その後、右岸の高松地区海岸で整備を予定して

おり、それ以降の事業は当該事業や員弁川左岸の城南第一地区海岸の事業進捗状況を鑑み検討していくと県から返答頂いている。



川越町側から見た対岸の状況

再

南海トラフ地震の発生が危惧されているが、堤防整備には長期間を要する。員弁川左岸、右岸同時に整備進めるように県に強く要望いただきたいが町の考えは。

答

産業建設課長

員弁川改修事業促進期成同盟会の場で右岸の耐震調査の要望を行っており、引き続き強く要望を行いました。

い。

【質問者の思い】「員弁川改修事業促進期成同盟会」や「知事と市町長および県民との円卓対話」などあらゆる機会を捉え、河川敷内の立ち木等の速やかな除去と堤防整備についても右岸、左岸同時に進めるよう粘り強く交渉を重ねていきたい。



員弁川(町屋川)右岸堤防(日の出橋から下流)

※頭首工とは、川をせき止めて農業用水として用水路に取り入れる施設。
※稲塚議員の他の質問は右上のQRコードからご覧ください。